鉄砲洲神社詩吟　素読論語解説
（平成 27 年 2 月 20 日）

【二三】子路（しろ）　君（きみ）に事（つか）えんことを問（と）う。子曰（しいわ）く、欺（あざむ）くこと勿（な）かれ。而（しこう）して之（これ）を犯（おか）せと。

子路が「君主に仕える時の心構えはどうでしょうか」と先生に聞いた。孔子は「君主を騙してはいけない」といいました。これは騙される君主も君主ですが、けっこう君主を騙そうとする家来もいると考えてください。

最近は、官邸に情報が届いているけれども、総理大臣には伝えていないという話はけっこう出ています。これもちょっと形の変わった欺く・騙すと同じで、総理大臣が欲しいと思う情報は上げない。古い情報の話で止めておくから、おかしな判断をしてしまうという事が、今の時代ではないかと感じます。

君主が嫌な顔をして、とんでもないと眉をしかめても、正しいと思うこと、君主のためになると思うことは諫めなさい。孔子が子路に対して、君主に仕えた時の心構えを教えたということです。

現代は、逆のことばかりが多いようで、どこの組織でも上司またはトップがおかしいと思って諫めるということは無く、だいたいゴマをすることが多いように感じます。

私も社長業務に携わっている時に、「こういう事があって大変です」という時には、もう手のつけようが無くなってきた時、情報として入りますから、聞いた瞬間、即座に対応しないといけない。だいたい会社が完全に倒れてしまうと、そこから持ち上げるのは駄目ですが、もうあとほんのちょっと押せば終わりという寸前に情報が入ってきます。それが普通だと思っていますので、聞いた瞬間、その日の内に即座に手をつけないと戻すことは出来ない。そういうことの繰り返しでした。話を聞いてから手を打つのは、トップとしては当たり前のことであると思います。

総理大臣は地に落ちてしまってから入ってくる情報が多いと思いますので、それから手をつけるので後手後手に回る。

「而して是を犯せ」諫言することは、まず難しい。諫言すれば、人間ですから腹が立つのが普通です。腹を立てないで、これは良いことを言ってくれたと聞いていても、ギリギリの時にしか諫言は出てこない。

諫言する時には、だいたい砂糖などをまぶして言いますから、まぶして言っているということを承知して聞いていないと、諫言の部分は聞こえないと思います。

【二四】子曰く、君子は上達し、小人は下達す。

君子を目指す人は自分を磨くことによって、レベルの高い話がスッと分かるようになってくるものです。君子を目指すことは良いことだと思います。しかし君子を目指さない小人は、これぐらいで良いと低俗なことに馴染んでくる。

言い方を変えると、利益を先にする人達また儲けようとしている人達は、段々低レベル以下のことに馴染んでくる。だから品性も卑しくなってくるという言い方ですが、これはどうなのかなという氣がいたします。ただこの時に、なるべく自分を磨いてくれる良い人物とお付き合いをしなさいという事が入っています。

安倍さんを出しますと、国会論争の中で首相が野次を飛ばしたという事は、あまり聞いたことが無い。この間やっていましたね、あれはびっくりです。時の首相が、野次を飛ばすというのは…。前に申し上げました吉田茂さんが隠しマイクに氣がつかないで「馬鹿やろう」と、つぶやいたのが出てしまった事例と全然内容が違います。どうみても安倍さんは君主を目指して上達のほうにレベルが上がっているのではなくて、どんどん低レベルに入ってくるなという氣がいたします。そういう点で考えると、国会議員の人達の品性は上達しているのか、下達しているのか、どちらのスパイラルなのかというと、どうしてもちょっと悲しい方向のスパイラルだなと感じます。

【二五】子曰く、古の学者は己の為にし、今の学者は人の為にす。

現代の話のようですが、孔子の頃でもそうなのでしょうね。

孔子は、昔の学者は自分自身を磨くため、自分の修養のために勉強したけれど、しかるに孔子の頃の学者は、人に見せて人に知られるように、そして良い就職口が見つかるように、今の学者は勉強をしている。今の学者はパフォーマンスが先に立っていて、中身が無いのではと、孔子の頃もそんなことを言っていたので、今の時代もそっくり同じだなと感じます。

最近、安倍さんが有識者会議なるものを、どんどん作って、そこに入れるのは自分の話しや考えを代弁してくれる、いわゆる御用学者を入れる。御用学者を入れて自分の考え方をもっともらしく権威付けてもらう。そういうところに採用されるために今の学者は分かるように、人に見られるようにパフォーマンスを一所懸命している。

現代の話そのままでして、今日の新聞に有識者会議の座長に日本郵政社長が就任したとありました。悪いとはいいませんが、だいぶお年を召した人を入れたのだなと思います。

それなりにお年を召した方で素晴らしい人は沢山おられるけれども、80 歳ぐらいを過ぎた方のお話を聞きますと、昔のお話をする分には確かにすごく良いのですが、最近のお話を解説する時には、少し最近の情報に疎くなっておられるから、ちょっと解釈に違和感を持つ時があります。例えば、イスラム国の解釈もちょっと前の解釈をしていますと、今のイスラム国はまるっきり違います。

余分ですが、国家というものは昔風に言えば、領土があり、その国の代表をする政府があって国民がいる。それを他の国々が国家であると認めれば、それは国家として成立するということが古の学問の定説みたいなものですが、今のイスラム国をそれに合わせて見てどうなのかと感じます。領土は、あるようには見えるけれど、あるとは断言できないし、無いとも断言できない。政府も行政府らしきものを作っているけれど、あるかと言えば、あるとは言えないし無いとも言えない。国民もいるようには見えるけれど、拉致してきたり強制的に抑えたりと、通常の国民と同じような言い方はできませんから、砂上の楼閣のようなイスラム国と言えます。

今、イスラム国をめぐって学者の方々は、あれは国家であると言う人と、違うと言う人とで分裂しています。判断基準がそこで言いあっている学者の人達は、己の修養のために、そういう学説を唱えているのか、または人に見せるためパフォーマンスのために、そういう論説を張っているのかと考えてみると、どうみても自分を磨くためにイスラム国について色々と言っているようではないという氣がいたします。

イスラム国の主張は正しいという言説もあります。ネットは色々と流していますが、週刊誌にも、少々そういう類のことは書いてあるようです。新聞の三面記事で、そういう言説がありますとちょっと書いていましたが、具体的には書いていない。マスコミも知らないわけではないと感じます。

過激派の実行集団という性格がベースなので、国家と錯覚するような扱いは、止めないといけません。